

19章 関係詞1

問題

【1】

解答・解説

- (1) who 「彼の母だと思っていたその女性は、彼の姉だと分かった。」
The woman turned out to be his sister. + I thought *she* was his mother.
- (2) who 「今入ってきた背の高い女性の名前は何ですか。」
先行詞は name ではなく lady であることに注意。
- (3) which 「その背の高い女性の名前を思い出せない。有名な女優の名前と同じだと思っているのだが。」
(2)と異なり、先行詞は the name である。
- (4) what 「父が言うことには何らかの理由がある。」
which では意味が通じない。
- (5) which 「その会社は、値段を公表していないものの、新しいコンピュータを発表した。」
The company came up with a brand-new computer. + The price of *the computer* was unpublished.
- (6) which 「ドアの後ろには中庭があり、その向こう側には伝統的な茶室がある。」
Behind the door is the patio. + On the other side of *the patio* is a traditional tea house.
- (7) whose 「私たちは、虐待を受けた子を養子にした4人の人物にインタビューを求めた。」
We asked for four persons for an interview. + *Their* adopted children were abused.
○ abuse 「～を虐待する」
- (8) As 「想定されることかもしれないが、植物はまばらであるか、少なくとも驚くほど小さい。」
主節の内容を先行詞とする関係詞は as か which であるが、文頭に置けるのは as のみ。
Ex. As is often the case with him, he is late.
(彼にはよくあることだが、彼は遅刻している。)
○ vegetation 「植物」
○ scant 「十分でない；乏しい」
○ dwarfish 「並外れて小さい」
- (9) what 「微力ながらできる限りの助けをあなた方全員に喜んで与えましょう。」
関係形容詞 what は「全ての～」という意味を表す。
Ex. I gave him what money I had. (私は持っていた全てのお金を彼にあげた。)
- (10) as 「航空機は、他人に迷惑を及ぼすような方法で操縦してはならない。」
元来接続詞である as が、such ~ as ..., the same ~ as ..., as ~ as ... などの表現で関係代名詞のように用いられることがある。擬似関係代名詞とも呼ばれ as 以外に、than

や but がある。

Ex. There is no rule but has exceptions. (例外のない規則はない。)

【2】

A.

解答・解説

- (X) 約5時間続いた停電は飛行機の離着陸を遅らせた。
- (Y) その停電は、約5時間続いたが、飛行機の離着陸を遅らせた。
- (X) (制限用法)では、停電は他にもあった可能性があり、その中でも5時間続いた停電のことを特定して言及しているが、(Y) (非制限用法)では、停電は1つしかなく、その停電が5時間続いたと補足的に説明している可能性がある。
- stall 「～(車)を(エンストなどで)止まらせる；～(飛行機)を失速させる」

B.

解答・解説

- (1) Do you know anyone who you might think will be interested in our plan?
「我々の計画に興味を持ってくれそうな人を誰か知っていますか。」
- (2) The captain's arrogance worsened, which made the other members enraged.
「キャプテンの傲慢さがさらにひどくなって、他のメンバーの反感を買った。」
非制限用法の which には前文の内容全体もしくは一部を先行詞とする用法がある。
 - arrogance 「傲慢」
 - enrage 「～を怒らせる」
- (3) The Internet is a wonderful instrument, by means of which we can communicate with people all over the globe.
「インターネットは素晴らしい道具で、それによって世界中の人々とコミュニケーションをとることができる。」
by means of ～を一つの固まりと見る。
- (4) My teacher was greatly surprised at the ease with which I solved the math problem. 「先生は私とその数学の問題を簡単に解いたことに非常に驚いた。」
with ease = easily を利用する。
- (5) You should read such books as will broaden your knowledge.
先行詞に such があることから、疑似関係代名詞 as を用いる。

C.

解答・解説

- (1) whose (2) which (3) 代名詞 (4) its (5) 形容詞
- (6) this [that ; the]

関係代名詞 whose と関係形容詞 which の違いはやや難しいが、理解しておこう。

【3】

解答・解説

- (1) c 「自分が正しいと思っていることをやった。」
what (I thought) was right と考える。
- (2) d 「あれは、父が少年時代に過ごしていた家だ。」
= That is the house (*which*) my father lived *in in* his boyhood.
- (3) a 「そのような素晴らしい作品が生み出される状況は、いまだに知られていない。」
The conditions remain unknown. + These fine works are created *under the conditions*.
- (4) a 「何も見返りを期待できない貧しい人々のために彼女は自分の残りの人生を捧げた。」
She devoted the rest of her life to the poor. + She could expect no reward *from them*.
- (5) c 「『児童虐待』という言葉には、子供が親やその他の大人たちによって虐待される犯罪も含まれている。」
The term “child abuse” implies a crime. + Children are abused by their parents or other adults *in the crime*.
- (6) c 「ついに私たちはある街に着いたが、その街の真ん中には高い塔を持つ教会があった。」
Finally we arrived at a town. + *In the middle of the town* was a church with a tall tower.
- (7) b 「ミャンマー連邦（ミャンマーの1989年からの国名）は、135の国の種族から成るが、その主な種族はカチン族、カヤー族、カレン族、チン族、バマー族である。」
The Union of Myanmar is made up of 135 national races. + The main national races *of the 135 national races* are Kachin, Kayah, Kayin, Chin, and Bamar.
- (8) d 「食物カロリーの過剰な消費は、一般的に肥満の主な原因と見なされている。そしてその治療にはダイエットとエクササイズが含まれる。」
Excessive consumption of dietary calories is commonly billed as the main cause of obesity. + Treatments *for obesity* include dieting and exercise.
○ dietary 「食事の；食物の」
- (9) c 「自分自身の邪悪な心が持つ罪の意識ほど確信できるものは何もない。」
There is nothing else. + You can be so sure *of it* as the sin of your own evil heart.
- (10) b 「教授は遅れるかもしれないが、その場合、私たちは彼女が来るまで待たなければならない。」
この *which* は関係形容詞であり *and* + *that* で書き換えられる。
= The professor may be late, *and in that* case we have to wait for her to come.
- (11) d 「彼女の成功は、チームメイトが彼女をどの程度助けてくれるかにかかっている。」
Her success depends on the degree. + Her teammates will help her *to the degree*.
- (12) c 「諸君たちが英文法を学習した素早さに私は驚きました。」
I was astonished at the rapidity. + You all learned English grammar *with rapidity*.

【4】

A.

全訳

英国の最も優れた哲学者の一人であるホッブズは、皆がいなくなって彼の声を聞くことのできる者がいない老年時代、健康を保つために毎晩歌を歌ったものだったが、そうすることで2～3年長生きできると、彼は本当に信じていたのだった。

B.

全訳

ギリシア人は類のないほど科学的な思考力を持っていたので、その思考力のために何でも物事を疑いなく受け入れたがらず、物事の真理を自ら見つけざるを得なかったのである。

C.

全訳

言葉は私達の生活において最も重要なものである。この道具を用いて人類は文明を築いたのである。したがって、子供たちができるだけ早くその意味や使い方を理解しはじめるのはなんと大切なことであろう！

D.

全訳

優しい息子はわずかに残しておいた力を振り絞って、自分が医者からもらった薬を犬の首に結び付け、家に持ち帰らせたのである。

【5】

解答

- (1) d
- (2) a
- (3) 全ての人がある他の全ての人とまったく同じように、自分の努力次第で富を築く機会を有すこと、すなわち全ての人には独立した人間で、社会における自分の地位を自由に築くのに、自身の住む社会構造が与える拘束は最小限であるということ。
- (4) 「全訳」の下線部①～④参照。

解説

- (1) a 後半部が本文 l. 2 'and indeed the differences between ~' の内容に反する。
 b 後半部が本文 l. 11 'social mobility ~' の内容に反する。
 c 後半部 (アメリカ人の多くはもはやこの理想を信じていない) の記述は本文にない。
d l. 14 'if people believe ~' の内容に一致。
 e 国民総資産 (total possessions) に関しては世界一金持ちだと記述されているが、個人所得については記述されていない。
- (2) in practice 「実際は」
 a in effect 「①有効な ②実際は」 / b at large 「概して」 / c in progress 「進行中で」 / d on end 「続けて」 / e in principle 「原則として」
- (3) 下線部⑥は続く2文によって同格的にその内容を説明されているので、その部分をま

とめれば良い。

(4)

- ①◇ a habit of …ing 「…する習慣〔癖〕」
 - ◇ humbly 「へりくだって；卑下して」
 - ◇ unfavourable 「不利な」
 - ◇ inherited 「受け継がれた」
- ②◇ justly 「①正しく；公正に ②《文修飾》当然のことで」
 - ◇ collective 「集合的な；収集された」
 - ◇ material 「物質的な」
 - ◇ criticism と that ～ は同格 「～という批判」
 - ◇ worship 「～を崇拜する」
 - ◇ unfair 「不公平な」
- ③◇ in all societies of which we know 「我々が知っている全ての社会において」
 - < we know of all societies (前置詞+関係代名詞)
 - know of ～ 「～を間接的に知っている；～のことを聞いている」
 - ◇ except some of the most primitive 「最も原始的な社会のうちのいくつかの社会を除いて」
 - except ～ 「～を除いて」
 - the most primitive (societies) と補って考える。
 - primitive 「原始的な；初期の」
 - ◇ high prestige, power and relative wealth have usually gone together 「高い身分と権力とそれに応じた富とは互いに相伴ってきた」《直訳》
 - prestige 「威信；名声」
 - relative 「相対的な」
 - go together 「①よく調和する ②(決まった異性と)付き合う ③(事が)相伴う；同時に起こる」
- ④◇ depend on ～ 「～による；～に頼る」
 - ◇ partly 「部分的には；ある程度」
 - ◇ which : family を先行詞とする非制限用法の関係代名詞。
 - ◇ count for 「重要である」(後に much, littleなどを伴ってその程度を表す。)

全訳

アメリカ人の全ての理想の中で、おそらく最も大きな影響力を持ってきたのは平等の観念であろう。これは、全てのアメリカ人が経済的に平等であることを意味するのではない。いや実のところ、成功をおさめた産業界の開拓者たちがその経済帝国を築いた時以来ずっと、貧富の差はきわめて大きい。経済的な意味において、アメリカ人の平等とは実際には機会の平等を意味している。すなわち、全ての人々が他の全ての人々と全く同じように、自分の努力によって富を築く機会を有すべきであるということ、つまり全ての人々は独立しており、自分の住む社会の構造から最小限の拘束しか受けずに、社会における自分の地位を自由に築くことができる、ということである。各人が自由であり、自らに対して責任を持つという観

念が「アメリカ的な生活様式」という考えの中心にある。今ではこの考えはある程度神話化してしまっている。成功者の息子は多くの明白な理由により、経済的な競争制度の中では有利な立場に置かれている。世代間の社会的流動性は、英国と比べてさほど大きいわけではないのだ。しかし、平等な機会という観念は全てのアメリカ人によく知られており、成功への扉を見つけるのは十分に容易なことである。①親から受け継いだ不利な社会的地位を、つましく甘受するといった習慣はない。もし人々が機会の平等を信じるならば、そのような信念の存在が機会をより平等にする傾向がある。

最も答えやすい問題は、金に関するものである。アメリカは裕福な社会であるという評判を得ており、確かに国民総資産という点からすれば、今までの世界で一番裕福な——いや、ほとんど一番裕福な国である。②アメリカ人は当然のことながらその積み上げられた物質的成就を誇りにしているが、彼等が金と物を崇拝しているという、ありふれた批判は不当なものである。いかなる社会においても、身分や地位の高い人もいればそうでない人もいるし、また③最も原始的な社会の中のいくつかを除き、我々が知るあらゆる社会において、高い身分と権力にはそれに応じた富が伴うのが普通である。アメリカ人は金を崇拝していると19世紀のヨーロッパ人が考えたのは、④当時のヨーロッパでは、アメリカではあまり重要視されていなかった家柄によって、身分や地位がある程度左右されていたからである。

注

- ℓ. 1 ◇ Of all American ideals 「全てのアメリカ人の理想の中で」
◇ influential 「影響を及ぼす」
- ℓ. 2 ◇ the differences between rich and poor 「貧富の差」
- ℓ. 4 ◇ pioneer [pàɪniə] 「開拓者；先駆者」
◇ industry 「産業；工業」
◇ empire 「帝国」
- ℓ. 5 ◇ everyone should have *as good a chance as* everyone else of achieving wealth by his own efforts 「全ての人々は他の全ての人々と全く同じように、自分の努力によって富を築く機会を有すべきである」
○ *as ~ as ...* 「…と同じくらい～」
○ *chance of ...ing* 「…する機会」
- ℓ. 6 ◇ independent 「独立した」 ⇔ dependent
- ℓ. 7 ◇ free to *do* 「自由に…できて」
◇ a minimum of restrictions imposed by the structure of his society 「自分の属する社会構造によって課せられる最小限の制限」
○ minimum 「最小限」 ⇔ maximum
○ restriction 「制限；拘束」
○ imposed は restrictions を修飾する過去分詞。
= restrictions (which are) imposed by ~
○ impose 「～を課する〔負わせる〕」
- ℓ. 8 ◇ conception 「概念」
- ℓ. 9 ◇ the idea of the 'American way of life' 『『アメリカ的な生活様式』という考え』

- 同格関係を表す of 「～という…」
- ◇ By now 「現在までには → 今では」
- ℓ. 10 ◇ mythical 「神話的な」
- ◇ competitive 「競争的な」
- ℓ. 11 ◇ obvious 「明らかな」
- ◇ social mobility 「社会的移動性」(生まれついた階級に縛られず、自分の努力によって階級移動できること)
- ℓ. 12 ◇ the idea of equal opportunity 「平等な機会という観念」
- 同格関係を表す of
- ◇ the doors to success are easy enough to find 「成功への扉は見つけるのに十分容易である」《直訳》
- ‘形容詞・副詞 + enough to do’ 「…できるくらい十分に～」
- ℓ. 14 ◇ the existence of that belief tends to make opportunity more equal 「その信念の存在が機会をより平等にする傾向がある」《直訳》
- ℓ. 15 ◇ that belief = belief in equality of opportunity
- ◇ tend to do 「…する傾向がある」
- ◇ make O C 「OをCにする」
- ℓ. 16 ◇ The easiest questions to answer are those concerned with money. 「答えるのが一番簡単な問題は金に関する問題である。」
- those = the questions
- concerned with ～ 「～に関係している」
- ◇ the reputation of being a rich society 「金持ち社会であるという評判」
- ℓ. 17 ◇ 同格関係を表す of
- ◇ the richest (that) the world has seen 「世界が見たことのある最も金持ちな国」《直訳》 → 「今までの世界で一番金持ちの国」
- ◇ in terms of ～ 「①～の言葉で ②～によって；～の点から」
- ℓ. 18 ◇ possession 「所有物；財産」
- ℓ. 20 ◇ status 「地位」

【6】

解答

- (1) a (2) c (3) c (4) d
 (5) d (6) d (7) d (8) b

解答

- (1) a

「19世紀の産業革命に匹敵するもう1つの革命が近づいている。」

◇ rival は「～に匹敵する」の意味の他動詞で、主格の関係代名詞 that が正解。

◇ we are approaching ～ 「我々は～に近づいている」

(2) c

「彼はミカという名前のガールフレンドに長い手紙を書いた。」

◇「ガールフレンドの名前がミカ」なので、所有格 whose を用いる。

(3) c

「父親というものは自慢にしている息子に裏切られることがよくある。」

◇ be proud of ~ 「~を誇りにする [自慢する]」

(4) d

「あなたがそれを自分でしなくてはならなかった理由がわからない。」

◇関係副詞が省略されたり、先行詞が省略されることがあるが、本問のように、the reason why の the reason は普通省略される。

(5) d

「彼は、ある人が卑劣な手を使う話を私にした。」

◇ he told me a story + someone played a dirty trick in it となるため、d が正解。

cf. play a trick on ~ (～(人)をだます)

(6) d

「その勤め口には、彼が十分有能だと考える人が採用された。」

◇人を先行詞とし、主語として働く関係代名詞なので who を用いる。

◇関係詞の後に S V が挿入されたかのような構造を持つ関係代名詞節 (連鎖関係代名詞)

(7) d

「我々は万博公園を訪れたが、そこは多くの美しい花で有名だ。」

◇ and it is famous for ~ となるため、which を入れる。非制限用法では that は使えない。

(8) b

「彼がどんなに成功しようとも、彼の人生はきっと心配事で時折暗くなるだろう。」

◇ no matter how … S (may) be 「いかに S が…であろうとも」 = however 《譲歩表現》

◇ be bound to do 「①きっと…する ②…する義務がある ③…する決心をしている」

【7】

解答・解説

(1) of whom → to whom

別解 of whom I introduced you → whom [who] I introduced to you

「先週あなたに紹介した社長は、サイドビジネスとして東京でイタリアンレストランを経営しています。」

I introduce you to him. から。

(2) but を取る。

「幸いにも、私たちには役立つ地図があった。が、その地図がなかったら、道に迷っていただろう。」

We would have got lost without the map. から。

(3) the commonest one is what … → the commonest one is that …

「全ての国家には現在の姿になる十分な根拠が多くあるが、最もよくある根拠は、違った

存在になり得ないということである。」

otherwise は形容詞で「異なった」という意味。

Ex. It cannot be *otherwise*. (他に言いようがない。)

主語が the commonest one = reason であるから, The reason is that S V. と同じように考える。what she cannot be でも文法的には訳せるが, otherwise と組み合わせることを考えると意味が通らない。

(4) during that time → during which time

別解 during that time → and during that time

「大雨が降り, 昼夜問わず強い風が吹いていた。そしてその間にほとんどすべての船が壊れて粉々になってしまった。」

which は関係形容詞。during which time = and during that time。

(5) which → with which

「これらの国の情報セキュリティー団体は, グーグルアースがいとも簡単に, いかなるユーザーに対しても, 地球上のどの場所の衛星写真も素早く手に入れるのを可能にしていることに驚いている。」

with ease = easily から ~ at the ease with which S V となる。

【8】

解答

- (1) Would it be all right if I come after three?
- (2) The trouble is that the alarm doesn't go off.
- (3) The hat does not go very well with your dress.
- (4) All [everything] will go well [all right].
- (5) You're asking for trouble.
- (6) You can say that again!
- (7) This street is closed to cars.
- (8) Just because the streets were cleaned up, our town changed for the better.

解説

- (1) 「～してもよろしいですか」と相手の了承を求める際の, 丁寧な表現の決まり文句が, Would it be all right if ~ ?

これは Will it be all right if ~ ? よりもずっと丁寧な言い方として記憶しておく必要がある。このパターンを用いれば, 本問は,

Would it be all right if I come after three? となる。

もちろん, May I come after three? と言って, 相手の了承を求めることもできる。

Would it be all right のところは, ・ ・ ・ ● ● の様に, all right のところを強く発音し, if I を [ɪfaɪ] と, 1 語のように発音するのが, 音声上のポイント。

Ex. Would it be all right if I get in touch with David directly?

(デイビッドと直接連絡をとってもよろしいですか。)

Would it be all right if I make a stop over in Hawaii on the way back?

(帰りにハワイに立ち寄ってもよろしいですか。)

- (2) 「困ったことに～だ」と、困ったことを相手に伝える時の、決まり文句は、

The trouble [problem] is that か

The trouble [problem] is というパターンをとる。

「目覚まし時計」は「目の前の」目覚まし時計であるから、了解事項の the をつけて、the alarm または、the alarm clock とする。

「目覚まし時計が鳴らない」という時の「鳴らない」は、does not go off または、does not ring である。この go off のような日常的に用いる句動詞は、早めの段階でできるだけつめこんでおくことが望ましい。

Ex. The alarm did not

| |
|--------|
| go off |
| ring |

 at the set time.

(目覚まし時計が時間に鳴らなかった。)

なお、trouble [trábl] の発音を travel [trávl] と混同しないように注意。

以下の例文で今回のパターンを身につけよう。

Ex. The trouble is that we'll have to live on a shoestring.

(困った事に、我々は限られた予算で生活しなければならない。)

○ on a shoestring = with only a very small amount of money

- (3) 本問の「～によく似合う」は「帽子とドレスが調和している」の意味で用いられているので、match または go (well) with が対応する。いずれも人を目的語にとらない点に注意する。

Ex. I'm looking for shoes to

| |
|----------------|
| go (well) with |
| match |

 this sweater.

(このセーターによく似合う靴を探しているのです。)

本問では「あまりよく似合わない」とあるので

does not

| |
|---------------------|
| go very well with ~ |
| match ~ very well |

 となる

- (4) 「(あることが) うまくいく」という場合、go well を用いる。したがって本問は all [everything] will go well となる。なお well の代わりに all right を用いるとより口語的な表現となる。また、「～にとってうまくいく」というときは、go well with ~ という形を用いる点にも注意しよう。

Ex. Things are going well with me. (万事うまくいっています。)

- (5) 「自分から危ない目にあおうとしているようなものだよ」という日本語から、今話している人間に対する発言と考えるのが妥当。このような場合の決まり文句は、

You're asking for trouble.

である。ask for ~ は、「(人に) ~を求める」の意味で用いるのが普通だが、ask for trouble となると、invite trouble ; behave in such a way that trouble is likely ; act foolishly の意味を表す。したがって、You're asking for trouble. で「trouble が起こっても仕方がないような、愚かなふるまいをする」という意味を表すのである。

- (6) 目の前に人に「全く同感です」と言う場合の表現には

I feel exactly the same way (as you do).

(exactly の代わりに much を用いると「ほとんど同感」の意味になるので注意。)

I quite agree with you.

I'm all for your idea.

I am with you all the way.

(for ではなく with である点に注意。)

I $\left\{ \begin{array}{l} \text{can't} \\ \text{couldn't} \end{array} \right\}$ agree with you more.

I am just the same opinion (as you).

I am of the same opinion as you. (文語)

I am of your opinion. (文語)

I sympathize with your opinion.

などがあるが、条件の again は使われていない。そこで、again を用いた決まり文句はないかと考えると、

You can say that again!

を思いつくはずだ。この表現は英検でいうと2級くらいのレベルなので、知っていなければならないものである。You can say that again!

- (7) 街の中を走る道は street:avenue, 町と町とをつなぐ道は road と考えるのが基本。「これは車の入れない道です」という記述から、この「道」は人間の通行は可能であるとわかるので、街の中を走っている道、つまり street となる。本問は「この street は車に対して通行止めだ」と考えて This street で書き出すとうまくいく。「～に対して通行止めだ」に対応する表現は、

be $\left\{ \begin{array}{l} \text{closed} \\ \text{blocked} \end{array} \right\}$ to ~

この場合の「車」は、車一般なので、無冠詞複数形の形で用いて cars とする。以上をまとめると、本問は

This street is $\left\{ \begin{array}{l} \text{closed} \\ \text{blocked} \end{array} \right\}$ to cars.

と英訳することができる。

- (8) 本問の「道路」は(7)同様、街の中を通っている道路なので、street である。街の中の一本の道路がきれいになっただけで街の様子が一変することはないので、a street は不可。また、streets では「無限大」を示すことになってしまうので、これも不可。「特定の全ての street」を表す the streets とすべきである。以下の例を参考にしてほしい。

I like $\left\{ \begin{array}{l} \text{dogs. (犬一般が好き)} \\ \text{the dogs. (その特定の複数の犬が好き)} \\ \text{the dog. (その犬が好き)} \\ \text{a dog. (複数の犬の中に一匹好きな犬がいる)} \\ \text{dog. (犬肉が好き)} \end{array} \right.$

「～がきれいになった」は、were cleaned up. (up は完了を示す。)

「道路がきれいになったおかげで」は、「道路がきれいになったこと」が旧情報であれば since, 新情報であれば because を用いて,

| | | |
|---------|--|------------------------------|
| Since | | the streets were cleaned up, |
| Because | | |

とする。なお, because の前に just をおいて,

Just because the streets were cleaned up,
とすると, より自然な英語になる。

「街の様子が一変した」の「街」は、「道路がきれいになったおかげで」という日本語から、「自分の住んでいる街」と考えるのが妥当なので, our town とする。ここでは「様子」という日本語にはこだわることはなく, 文字通り英語に移せば,

| | | |
|------------------------|--|-------------|
| our town (has) changed | | completely |
| | | greatly |
| | | a lot |
| | | drastically |

または,

| | | | | |
|-----------------|--|----------|--|---------------------|
| there have been | | complete | | changes in our town |
| | | great | | |
| | | a lot of | | |
| | | drastic | | |

となるが, 「よい方向に変わる」という時に用いる change for the better という入試頻出慣用表現を知っていれば,

Our town (has) changed for the better.

とよりシンプルな英語にできる。以上のプロセスを経て, 一番すっきりした形にしたのが解答例。

今日の一言

Keep no more cats than will catch mice. 「ネズミを捕る以上に多くの猫は飼うな。」

この than は関係代名詞と考えることもできる。また, クジラの公式 (A is no more B than C is. (C 同様 A は B でない) ではないので注意する。

さて, 人生には役に立たないものがある。もちろん, 実際には予想外の有益性を持ちうるものもあると思う。しかし短い人生, 殊に受験においては, 余計なことをやっている暇はない。必要以上に参考書を買って揃えたり, 問題集を余分に買ってしまふ必要はない。まずはこのテキストを 100% 消化することに全力を尽くそう。